

2024年4月11日

各位

会社名 株式会社 クリーマ
代表者名 代表取締役社長 丸林耕太郎
(コード番号: 4017 東証グロース)
問合せ先 執行役員コーポレートディビジョン GM 伊藤彩紀
(TEL.03-6447-0105)

業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2023年4月14日に公表した2024年2月期の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

1. 当期の業績予想数値と実績値との差異 (2023年3月1日～2024年2月29日)

	連結売上高	連結 営業利益	連結 経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり連 結当期 純利益
前回発表予想(A)	百万円 2,793	百万円 1	百万円 21	百万円 6	円 銭 1.00
今回修正予想(B)	2,508	41	68	79	11.76
増減額(B-A)	△284	40	47	72	—
増減率(%)	△10.2%	—	222.3%	—	—
(ご参考) 前期連結実績 (2023年2月期)	2,500	△385	△384	△408	△60.85

2. 差異の理由

2024年2月期において、プラットフォームサービス(前期比108%)、新サービス群(前期比255%)が引き続き成長を牽引した一方で、主力サービスとなるマーケットプレイスサービスにおいて、前年の2023年2月期に実施した大規模なTVCMの反動影響に加え、新型コロナウイルスの5類移行に伴う外出需要の追加拡大(リオープニング)による影響が想定以上に大きく、当連結会計年度の流通総額は165.8億円(前期比99%)、売上高は1,602,840千円(前期比98%)と前年を僅かに下回る結果となりました。しかしながら、そのような逆風の中であってなお、年間の流通規模は165.8億円と引き続き業界No.1であることを前

提に、国内ハンドメイドマーケット市場におけるマーケットリーダーとしてのポジションはより一層強固なものとなりました。また、イベントサービスにおいては、前期には2023年1月をもって全店閉店となったストアサービス（Creema Store）の売上が計上されていたこと、また今年度の開催を見合わせた音楽とクラフトの野外フェスティバル「Creema YAMABIKO FES」の売上も計上されていたこと等から、今期はその売上分の下方圧力があり、当連結会計年度の売上高が141,658千円（前期比69%）となり、期初の予算以上の実績とはなったものの、前年実績を下回る結果となっています。

その結果、2024年2月期連結会計年度の連結売上高は2,508,966千円（前期比100%）と、前年から成長が横ばいとなり、期初に開示したものから下方修正するはこびとなりました。

一方で、コスト面においては、2024年1月末にリリースされたネットショップ開設サービス「InFRAME」や、レッスン動画プラットフォーム「FANTIST」を始めとする新サービスへの開発投資など、中長期的な成長を企図した投資は当初計画通り大胆に継続しつつも、網羅的なコストコントロールに取り組み、当初の想定からコストを大幅に圧縮することができました。

これにより、2024年2月期連結会計年度の営業利益は41,436千円（前期比427,083千円増）、経常利益は68,923千円（前期比453,640千円増）、税前利益は68,923千円（前期比474,384千円増）、税後利益は79,143千円（前期比487,462千円増）となり、売上こそ下方修正となりますが、各利益については、期初に開示したものから大きく上方修正するはこびとなりました。なお、親会社株主に帰属する当期純利益の着地予想が、当初の業績予想よりも特に大きく上回っておりますが、これは直近の事業計画を踏まえ、期初計画では計上を想定していなかった繰延税金資産を39,972千円計上することにした影響によるものです。

（注）上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しです。実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる場合がございます。

以上